

人生の最後に重い病気になり、口惜しさ一杯ですが、いい先生、いい看護師に出会い、最後にいい病院に入れてもらい、毎日見舞いに来てもらってとても幸せです。あなたは高齢なのに毎日元気で介護してくれたのが何よりうれしかった。8歳も違うのだから、本当は私があなたの面倒を見なければいけないのに、逆になってしまい本当に申し訳ない。ごめんなさいね。

若菜（娘）も毎朝来てくれて本当によく世話してくれた。いつも感謝している。あの孫たちは私の宝だよ。どれだけ慰められたかしかない。特にさきが教師の道を選んで見事都立高校の教師になったことは、後継者ができたようで本当にうれしい。さや、さらも素晴らしい子供たちだが、将来の姿が見られないのが何とも残念だ。

教師時代は楽しかった。本当になつかしい。下妻小学校、山王中学校。一人一人の顔が浮かぶよ。みんないい子たちだった。みんな私をしたってくれた。最近も何人か会いたいといってきたのに、体調が悪く断ってしまったのが残念でならない。みんなどうしているかなあ。一緒に働いた先生たちも皆懐かしいよ。

綱島住宅の時、近所の父兄から頼まれて子供を預かり、ついでに勉強も見てやったらほとんど成績が上がった。それが評判になって生徒がどんどん増えた。あれには我ながら驚いたよ。少し離れた日吉に移ってからも皆やめずに来てくれたね。一人女優になった子がいたね。あの頃はすごく忙しかったが楽しかった。

私の母は早くから（旧制中学時代から）あなたを見込んでいたよ。「孝雄君はただものじゃない。必ずひとかどの人間になる」と言っていた。この母の見立ては正しかったんじゃないの。だから沢山あった縁談を全部断り、あなたが現れるのを心待ちしていたようだった。だから数年ぶりであなだが兄の線香あげに来てくれた時の母の喜びようは異常なほどだった。

教育大在学中、20歳で事故で亡くなった長男の面影を、親友だったあなたに求めていたのかもしれない。終戦の少し前、父を残して満州からの引き上げ、戦後夫の生死も不明の中で女手一つで4人の子供を育てようと農業までして苦労した母を思うと涙がでる。そんな母を兄たちと一緒に支えてくれたのがあなただった。次兄（法政二高教師）が急死（大動脈瘤）したこともあって、両親の最後を十分見てやれなかったことが私の一番の心残り

だ。でも経堂の病院に横浜から毎日通ったね。車の免許取ったのも母のためだった。

振り返ってみると、二人とも裸一貫で取手に所帯を持って、8年後取手を出て東京にも横濱にも近い日吉に家を建て、2人の子供を大学にも上げた。よくどここまで来たものだと思うよ。取手を出て横浜に来た決断は正しかったし、そのごはすべて良い方向に動いてきたね。質素な暮らしだったが、生活に困ったことは一度もなかった。明日は必ず良くなると信じ、事実そうなってきた。

あなたは取手では議員に担がれ、綱島住宅では自治会長や管理組合長、興人住宅でも建築協定委員長になるなどどこでもリーダーに担がれ、立派にやってきたね。私はお手伝いで大変だったがやり甲斐があったね。近所の人たちも皆協力してくれた。そればかりかあなたは神奈川県副知事、神奈川サイエンスパークの社長、神奈川県日中友好協会の会長、川崎市産業振興財団の理事長など、大きな仕事をどれも立派にやり遂げてきたんじゃない。もっと誇りを持っていいのよ。地方自治や国際関係の本だってもっと書けるでしょ。

(注) この項は割引して読んでください。元気なころ私への妻の評価は常に辛口でした。これが本音ならうれしいのですが・・・(孝雄)

私はもう十分生きたし、やることはみんなやったから悔いはないよ。早くおばあちゃん(妻の母のこと)のところへ行つてゆっくり休みたい。長い間本当にお世話になりました。どうも有難う。いつまでもみんな元気だね。

(2018年6月30日 久保孝雄記)